

会 議 録 （１）

会 議 の 名 称	平成２７年度 第３回ジョンソン基地跡地利用計画審議会
開 催 日 時	平成２７年６月２９日（月） 午後１時３０分 開会、午後３時００分 閉会
開 催 場 所	入間市市民生活センター 活動室１
議 長 氏 名	関根栄一
出席委員(者)氏名	青山正一、安孫子学、岩井絹江、岩崎 茂、大賀志日出輝、 久原愛生、小鹿広美、駒月理人、澤田壽一、関根栄一、 高石直美、高橋康造、瀧 和之、豊泉一雄、吉川弘三
欠席委員(者)氏名	なし
説明者の職氏名	課長 浅見嘉之、副主幹 亀田一生
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	１ 開 会 ２ 議 題 (１) 平成 27 年度第 2 回審議会に出された質問に対する回答について（公開） (２) 防衛省の要請に対する市の対応について（意見交換）（公開） ３ その他 ４ 閉 会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	２９名
配 布 資 料	・資料１７ 平成 27 年度第 2 回審議会に出された質問に対する回答について ・資料１８ 防衛省の要請に対する市の対応についての論点
事務局職員職氏名	企画部長 田中利之、次長 長谷川芳明、企画課長 浅見嘉之 主幹 宮澤昌樹、副主幹 亀田一生、主事 松本幸文
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 （ 2 ）

議 事 の 概 要 （ 経 過 ） ・ 決 定 事 項

- ・ 次の議題について、委員が意見を述べた。

（議題） 防衛省の要請に対する市の対応についての論点

会 議 録 （３）

発 言 者	発 言 内 容
関根会長	<p>(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する)</p> <p>議事に入る前に、私から委員の皆様に申し上げます。前回、第２回審議会の議事内容を踏まえ、委員各位には慎重な発言と適切な討論を求めます。</p> <p>また、傍聴者の皆様に申し上げます。同じく前回の会議において、一部の方が、遵守事項を守らず、委員の発言に対して拍手をしたり、ざわついたりすることがありました。資料とともに配布している遵守事項にも示されているとおり静粛に傍聴していただくことがルールとなっておりますので、念のため注意を申し上げます。</p> <p>それでは、議事に入ります。議題「（１）平成２７年度第２回審議会が出された意見、質問に対する回答について」、事務局から説明を求めます。</p>
浅見課長	<p>それでは、前回第２回会議において、委員からいただきましたご質問につきまして、防衛省に確認して得られました回答内容をご説明します。資料１７をご覧ください。</p> <p>前回の会議で大賀志委員からいただいたご質問でしたが、「読売新聞５月１２日の朝刊の記事によると、アメリカ国防総省は、オスプレイの日本配備の理由を挙げる中で、「自衛隊との相互運用性を高め、作戦面での協力を強化、より強い防衛関係を促進する」としている。これはどういうことなのか。また、防衛省はこのことをどう考えているのか確認してほしい、というものでした。</p> <p>防衛省によると、「ＣＶ－２２オスプレイが我が国に配備されれば、米軍と自衛隊の間で、ＣＶ－２２オスプレイを利用した共同訓練や、日米双方が保有するティルト・ローター機（オスプレイのようにプロペラ機とヘ</p>

発 言 者	発 言 内 容
関根会長	<p>リコプターの機能を併せ持つもの) の運用情報の共有が可能となるなど、日米の相互運用性の向上等に寄与します。</p> <p>このように、政府としては、高い性能を有するC V－2 2オスプレイが我が国に配備されることは、日米同盟の抑止力・対処力の向上に資するほか、アジア太平洋地域の安定にも資するものと考えています。」とのことでありました。</p> <p>なお、要望書としていただいております豊岡地区区長会からの防災倉庫を災害対処拠点区域内に設置できないか、体育協会やサッカー協会からの運動場の整備については、現在、防衛省が事例等を調べているとのことあります。</p> <p>以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。ただいまのご意見についてご質問等がありましたらお願いします。</p> <p>無いようですので、次の議題に入ります。前回会議の最後に申し上げましたとおり、本日は、委員の皆様のご意見を、事務局が示した論点に沿って、述べていただきたいと思います。その前に、資料１８「市の対応についての論点」に関して事務局から説明を求めます。</p>
浅見課長	<p>それでは、防衛省の要請に対する市の対応について、ご説明します。</p> <p>本日は、論点を絞ってご意見をいただくことになっておりますので、その論点を示しました資料１８についてご説明します。</p> <p>最初に囲みで審議会への「諮問内容」を改めてお示ししました。再確認をしていただければと思います。</p> <p>これまでの審議内容や市民からのご意見を踏まえて、４つのテーマをお示ししました。各テーマには論点が示されていますが、２つ以上の論点が示されているテーマについては、それらを踏まえたご意見をいただければ</p>

発 言 者	発 言 内 容
関根会長	<p>と考えております。</p> <p>資料１８についての説明は以上です。</p> <p>なお、前回審議会でお示ししました市民からのご意見については、６月６日以降もいただいております。６月２６日現在で１２件であり、肯定的な意見１件、否定的な意見１１件でございます。ご意見の趣旨については前回会議でお示ししました資料１４のご意見と同様でございましたので、２６日までに新たにいただいたご意見の趣旨もこれら４つのテーマの論点に含まれているということでご了解をお願いいたします。</p> <p>ただいま、事務局から説明いただきましたが、分からない点や質問等ございませんか。</p> <p>無いようですので、資料１８に示された「市の対応についての論点」のテーマごとに、１人ずつご意見をいただきたいと思います。まず、具体的な方法を申し上げます。論点は４つのテーマが示されていますが、委員の皆様からひととおりご意見を伺い、全委員の発言が終わった後、ご意見に対するご質問等があれば、お受けする形で進めます。</p> <p>それでは、テーマ１「防衛省の東町側留保地利用計画と防衛力強化への懸念」について、安孫子委員から順番にお願いします。</p>
安孫子委員	<p>このテーマについては、この審議会で議論すべきなのか悩ましいです。私自身、これについての専門家でもありませんし発言しにくいところがあります。</p>
岩井委員	<p>災害対処拠点については他の場所に作ることはできないと思うので、市民利用について防衛省と確約をとって市の利用計画に沿った形で行っていただきたいです。</p> <p>自衛隊病院については、２次救急の受け入れができ、市民に貢献できる</p>

発 言 者	発 言 内 容
岩崎委員	<p>ような施設ができればと考えております。</p> <p>仕事の関係で2回審議会を欠席してしまいましたが、その間に色々な意見が出ていたことを議事録で確認しました。それを踏まえて感じるのは、テーマ1については、ここで議論すべき内容ではなく、災害対処拠点の利用についてどうするのかということは、基地の拡大とか拡張ということとは別の問題であろうと思います。</p> <p>この審議会では災害対処拠点についての議論を重ねて、市民にとって良い結果となるような話し合いをしていくことを希望しています。</p>
大賀志委員	<p>テーマ1とテーマ2はリンクしており、答えるのが難しいですが、テーマ1に絞って言えば防衛力強化への懸念についてはあまりありません。</p>
久原委員	<p>従来、おそらく自衛隊病院は基地内にあったものと思います。今回それを留保地に作るというのはどういう意図なのか。直下型の地震は必ず来るわけですので、災害対処拠点については必要なことだろうと思いますが、関東地区にはかなり整備されているところがある中で、入間市だけが自衛隊病院とセットで新しく整備されるということが懸念としては残ります。</p>
小鹿委員	<p>テーマ1については特に意見はありません。</p>
駒月委員	<p>防衛省から受けた計画が防衛力に結びつくのかということに関して、懸念は少ないと思います。</p>
澤田委員	<p>テーマ1に関しては防衛力強化でもなんでもなし、私は留保地を災害対処拠点にすることは積極的にやっていただければ良いと思います。</p>

発 言 者	発 言 内 容
高石委員	<p>最近、災害が起こると被害が大きいですし、基地拡張とか、防衛力強化とかいうことは無しにして、災害対処拠点のために入間市の基地を強くするという方向で進めてもらいたいと思っています。</p>
高橋委員	<p>ジョンソン基地跡地の開発の目的は災害拠点の整備だと思うので、防衛力強化との関連についてはあまり懸念しておりません。自衛隊病院が防衛力強化に関連するかどうかはわかりません。</p>
瀧委員	<p>私も防衛力強化に結びつくとは考えておりません。また、安全保障法案に関しては、この審議会で話し合うべき内容ではないと考えております。</p>
豊泉委員	<p>澤田委員、瀧委員に同意いたします。結果として基地の拡張にはなると思いますが、通常の訓練は国民や平和を守るという自衛隊の役割を達成するためには必要なものと考えております。安全保障法案については国会で審議中であり、今回の防衛省の利用計画とは切り離すべきと考えます。</p>
青山委員	<p>豊岡地区の会長から要望書が出されたと思いますが、基地の中に災害用の倉庫を設置することは特にお願いしたいです。騒音についてはなるべく影響がないようにしてもらいたいと思います。</p>
関根会長	<p>色々なご意見ありがとうございました。この審議会では安全保障法案や基地拡張、防衛力強化などについて議論すべきではなく、災害対処拠点ができることについては問題がないのでは、といった意見を聞きました。これらの意見は事務局にまとめていただきます。</p> <p>それでは、次に、テーマ2「災害対処拠点」について、今度は豊泉委員から順番にお願いします。</p>

発 言 者	発 言 内 容
豊泉委員	<p>東日本大震災や豪雨災害、火山災害での自衛隊の災害救助活動は国民の皆様を守るためになくてはならないものと思います。</p> <p>運動場の市民利用については、前回体育協会からの要望として説明させていただきましたが、そこが利用可能な競技であるソフトボールは93チーム、少年野球は17チーム、サッカーは36チームの登録があります。特にサッカーについては利用可能な施設がありません。400mトラックを作れば、その中にサッカー場も作れますのでよろしくお願ひしたいと思っております。今後の防衛省との話し合いの中で、細かいことについても話せる段階になりましたら、私からもお話させていただければと思っております。</p>
瀧委員	<p>災害拠点を整備することは大変意味のあることだと考えております。飛行場に隣接しており、圏央道のインターにも近いという場所に着目して防衛省もここを選んだのだと思います。お金をかけて作るのであれば、防衛省側の利便性も十分に発揮され、実際災害が起きたときに有効に使えるような施設を作ってもらえればいいと思います。</p> <p>運動場については、現状、市内には良い運動場がないのではないかと思います。大きい運動場があり、市民に開放されて競技などが行われれば、色々な人に来ていただくきっかけにもなりますので、是非とも整備していただければ良いと思います。</p>
高橋委員	<p>災害対処拠点は首都直下地震、いつ起こるかわからない地震を想定しておりますので、整備する意義はあると思います。</p> <p>運動場については週末に利用できるということになってはいますが、できれば訓練のない平日にも利用できるようお願いしていただければと思っております。</p>

発 言 者	発 言 内 容
高石委員	<p>30年以内に大きな地震が来るのではないかと新聞や雑誌で言われております。以前の大きな地震の時、私の友人は千葉から8時間以上も歩いて帰ってきて大変だったと言っていました。このような施設を作るということは良いことではないかと思えます。是非、災害対処拠点を中心にして考えていただけたらと思えます。</p>
澤田委員	<p>先般の大島の災害の時、近所の人は夜中に飛行機が飛び迷惑だったかもしれませんが、物資がすべて入間市から大島に搬送されました。また、視察等に行く方々も、ほとんど入間基地から飛んでおります。そういう意味でも、基地と一体化された災害対処拠点というのは非常に重要だと思えます。新潟中越地震の際も飛んでいきましたし、基地と一緒に運用することの意味があると思えます。</p> <p>スポーツ施設に関しては体育協会を中心に議論していただき、具現化できるようにしていただければ良いと思えます。</p>
駒月委員	<p>災害対処拠点の設置については賛成です。前の審議会でも話しましたが、せっかく作るのであれば入間市のアピールポイントとして利用しているというのが私の考えです。確かに、近くに住んでいるからといって、優先的に救助されるわけではないと思えますが、少なくともそこへ行けば支援物資があるという安心感につながると思えます。色々な企業や個人の防災に対する意識が高まっている中、うまくアピールできれば、企業誘致も進み、住民も増える。そうすると税収が増え、色々なことにお金が使えらるということになるのではないかと思えます。こういったことで入間市が成功すれば、全国に防災意識を広める良いきっかけになると思えます。</p>
小鹿委員	<p>災害対処拠点の必要性はあると思えますし、それが入間市にできるということは安心にもつながるので賛成です。</p>

発 言 者	発 言 内 容
久原委員	<p>運動場についてですが、私の子どもが隣の東町小学校、中学校に通っています。児童数の減少もあり、小学校、中学校がその運動場を利用することは特にないと思いますが、スポーツをする子供、大人に開放していただけたら良いなと思います。</p> <p>災害対処拠点について、基本的には賛成です。ただ、市民のためにうまく利用されるか、付帯要望がしっかりと守られるかどうか。例えば運動場をきちんと作ってくれるかなど、いくつかこちらから要望することに対して善処していただけるか、といったことが明確になれば私としては賛成です。</p>
大賀志委員	<p>私は反対です。大災害が起きたときに物資や人員を 1 箇所に集結して救助にあたるというのは大変良いことだと思います。</p> <p>しかし、南海トラフ地震が起きたときは首都圏に部隊を集結させることはありますか、という問いに対し、防衛省は、そういうことはありませんと回答しました。また、首都圏直下型地震が起きた場合、入間基地だけが対応するのですか、という問いに対し、入間基地だけではありませんと回答が来ました。3 月 3 1 日の読売新聞の記事に、南海トラフ地震では 7 2 時間以内に、「災害 1 0 県に 1 4 万人を派遣」とあります。応援部隊の動員計画によれば、警察官 1 万 6 千人、消防隊員 1 万 7 千人、自衛隊 1 1 万人を派遣し、食料 4 万 8 千食分を送りますというように、各地区からの応援により西日本をサポートすることになっています。</p> <p>首都圏については、近郊の複数の基地が対応することとなっており、あえてここに巨大な集積基地を作る必要があるのか疑問です。</p> <p>オスプレイについては、日米で共同訓練する、また日米の抑止力・対処力の向上に寄与すると言っており、災害対策拠点よりもむしろ、米軍と入間基地の関係が重要視されているのではないかと思います。</p>

発 言 者	発 言 内 容
岩崎委員	<p>また、最近飛行機の飛行回数が増えたように感じますが、もし災害対処拠点ができれば、飛行機の離着陸が非常に多なることが最も危惧されるところです。米軍との共同訓練などで使われれば、相当な騒音を我々は覚悟しなければなりません。</p> <p>ですから、この施設を作ること自体は賛成ですが、優先順位が間違ってしまうと、住民にとって大きな問題となるのではないかと思います。</p> <p>基地に直結した災害対処拠点がいかに機能的に活躍できるかということ、インターチェンジや国道などの交通網がとても整備されていること、ここがすばらしい地盤であることを調べ上げて航空士官学校ができたように、首都直下地震に遭ったときに唯一残る安全な場所であり、救難活動が十分にできる場所であること。そういったことから候補に上がり、それを市民が許して、いざというときに国のためにこの場所が使えるということは、市の名誉にもなります。若干の騒音などは脇に置き、入間市がそれだけの価値のある街なのだということを考えた時、街の誇りとして、多くの命を救うために是非この拠点を迎え入れてほしいと思います。運動公園についても、平常時も大変利用価値のある場所であるということで、大賛成であります。</p>
岩井委員	<p>災害対処拠点については、住民にとってどういうあり方が良いのかという条件等を審議会から提示しながら、是非受け入れたいと考えております。</p> <p>東京ドーム8つ分もの広さの留保地は、自然豊かで、子供たちを遊ばせたりするにもすばらしい環境であると思いました。子育てのしやすい、安心、安全で元気な入間市であることを社会に訴えるためにも良い条件かなと思いますので、スポーツ施設等も使いやすいような条件を付けて進めていただければと考えております。</p>

発 言 者	発 言 内 容
安孫子委員	<p>そもそも、大地震が発生した際にそのような災害対処拠点のことを考えていなかったのか、ということが課題になっていますので、整備は必要なのだろうと思っております。その中で入間市が候補に挙がっているということは、被害が東京の中心部に及んだ時に利便性が良く、14万㎡という広大な土地がこのエリアの中にどれだけあるのかということを考えると致し方ないと思います。</p> <p>ただ、災害対処拠点がどのように整備されるのかという具体的なイメージはまだわかっておりません。また、平常時どの程度の訓練が行われるのかもわかりません。ですから最終的にこの留保地が選ばれることに絶対賛成であるかどうかは現時点ではよくわかりませんが、災害対処拠点としてはどこかしらに整備しなければならないのだろうという意味で賛成です。</p> <p>運動場については、過去の計画にもありましたように、公園を整備していきたいという入間市の意向もありますし、市民にとっても有意義なことだと考えております。運動場については必要不可欠なものとして考えていければと思っています。</p>
青山委員	<p>おそらく、この跡地も災害時の避難場所になると思いますが、その時の出入り口がどうなるのか、また運動場にしてもどのように門を開けるのかといったことも調整してもらいたいと思います。</p> <p>また、入間市はこれまで大きな災害はなかったと思いますが、これからは各自治会で災害に対しての訓練をしていく必要があると思いますので、そのことについても考慮してください。</p>
吉川委員	<p>災害対処拠点については、防衛省から示された計画を見ましても必要なものと思いますし、この地が選定された意味という岩崎委員の意見に賛同し、受け入れるべきではないかと思います。</p> <p>運動場については、平成20年6月に入間市の利用計画は出されたもの</p>

発 言 者	発 言 内 容
関根会長	<p>の、今日まで具体的な作業にかかれなかったという反省すべき点があるのかと思います。国に先手を打たれてしまったという感があります。今後は施設の配置イメージで示された10haほどの開放区域は、是非市民の利用を積極的に図れるようにしていただきたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。多くの方が、災害対処拠点として整備することについてはあまり反対していないというご意見でした。スポーツ施設としての利用に関しては、市がこの後防衛省とじっくり煮詰め、市民ができるだけ有意義に使える、利便性が高いものを要求していくのが良いであろうという意見でした。</p> <p>細かい点に関しては事務局が意見をまとめるということをお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、テーマ3「自衛隊病院」について、豊泉委員からご意見を伺いたいと思います。</p>
豊泉委員	<p>専門的である澤田委員がいますので、このテーマについて私たちが知れないようなお話を後ほどお聞きできればと思います。</p>
瀧委員	<p>2次救急は受け入れるとなっていますが、実際起きてみなければ、受け入れるのか否かについて私はわかりかねます。ただ、小児、高齢者等、救急隊員が本当に必要であると思ったときに、救急で受け入れてもらえるのであれば、市民が防衛省にこの土地を使っても良いと言える条件になるのではないかと思います。</p>
高橋委員	<p>市民目線で言うと1次救急病院であってほしいと思いますが、自衛隊病院の目的や性質からすれば、2次救急であることはやむを得ない思ってお</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>ります。市内に救急搬送病院が1つ増えることは、医療を受ける側の選択肢になりますので良いのではないかと感じております。</p> <p>ただ、市内の病院で急患の受け入れができないので、自衛隊病院へということでは、救急搬送に時間がかかってしまい、助かる命も助からなくなってしまうことも懸念されます。そのことについて何らかの改善を求めたいと思います。</p>
高石委員	<p>2次救急という意味がよくわかりませんが、先生から説明いただき、入間市民が利用できる方向に進めてほしいと思います。</p>
駒月委員	<p>自衛隊病院ができることによって入間市の病院のベット数が減るのであれば考えものですが、そういうことはないということです。困った時の受け入れ先ができるということでは反対する理由はないと思います。</p>
小鹿委員	<p>例えば学校で生徒が怪我をしたときに、自衛隊員の家族の子は自衛隊病院に連れて行ける、そうでない子は別の病院に連れて行かなければいけないとなった場合、学校側としては混乱が生じる場合があると思います。そういった場合にどちらの子も受け入れてくれるのであればありがたいと思います。</p>
久原委員	<p>せっかく病院という施設ができて市民が使えなければ設置の意味がすごく薄れると思います。ですからできるだけ市としても交渉していただき、なるべく市民が利用できるような形にしていいただければと思います。</p>
大賀志委員	<p>自衛隊病院ができること自体は反対することはありません。しかし、自衛隊病院は自衛隊員とその家族しか利用できず、すべて無料です。</p>

発 言 者	発 言 内 容
青山委員	<p>その他の病院で受け入れられない緊急の場合は、是非この病院で受け入れてもらえるようにしていただきたいです。</p>
吉川委員	<p>ウィキペディアで調べましたので、それが正しいかはわかりませんが、防衛省は何年も前から自衛隊病院の開放について前向きに取り組んでいると書いてあります。実際に一般開放している自衛隊病院もありますが、一般の利用はあまり伸びていないとのこと。</p> <p>ですから、今回自衛隊病院を作るにあたっては、一般開放を条件として受け入れたらどうかと思います。当然災害時はこの自衛隊病院が活躍すると資料から読み取れますので、そのような条件付で受け入れれば良いと思います。</p>
澤田委員	<p>自衛隊病院の話は非常に古い話であり、急に出た話ではありません。そもそもこの話が表に出たのは、木下前市長が5選目を目指した秋ごろですから、その1年以上前までさかのぼります。その時すでに自衛隊内部で三沢、岐阜、那覇の自衛隊病院を統合した病院を作りたいという議論があったそうです。それを木下前市長が知り、是非それを誘致したいと言い、積極的に乗り出しました。そこで私も当時の基地司令と話したところ、そのような計画があると言っていました。そのうちに市議会議員もそのことを知り、岐阜等に視察に行き、色々な議論がなされました。</p> <p>自衛隊と木下前市長のやりとりでは、大賀志委員が言いますように、木下前市長は産婦人科、小児科を是非作ってほしいということを強く求めました。それに対し、自衛隊側は産婦人科は先生がいないのでできない。小児科の先生は1人しかおらず、できたとしても夜間と回答したことから、選挙のための病院作りの話は流れました。そして、その後4年間木下前市長は病院について触れませんでした。これが入間市の政治的な背景です。一度東京新聞にスクープされ、入間に自衛隊病院ができると載りました。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>そこで、医師会としては公式に基地と話し合いをしたいと申し出たところ、基地司令が快く応じてくださいました。立川基地の航空医学実験隊と、その15人のドクターが入間基地に移って来ました。その先生方を中心に病院は作れるという意向もありました。そして、私たち医師会は基地司令、担当者、市ヶ谷から来られた5～6人の先生らと何度も会合を開いております。その中で私たち医師会は自衛隊に対して、こういうものを作ってほしい、こういうことをしてもらっては困るということは一切言っておりません。自衛隊の中では、当時木下前市長に説明したとおりで変わっておりません。あくまでもパイロットを中心とした隊員の健康管理を第一とした病院であり、オープンにはしないという返事をいただいております。医師会からは、その病院ができたときに、先生や看護師を引き抜くようなことがあっては困るという意見だけは出ました。ですから、医師会が賛成だとか反対だとかは一回も言ったことはありません。その当時、自衛隊側は病院を入間基地の中に作りたいという意見でした。</p> <p>担当者が代わった際に、話し合いをしましたが、その時に初めて病院を留保地の災害対処拠点の中に作りたいという意向が出ました。</p> <p>病院にはレベルというものがあります。今回の自衛隊病院は60床という規模を予定しており、そうすると麻酔科の先生は夜間おりません。ですから、夜間に手術できるような病院ではありません。</p> <p>1次、2次、3次救急について話しますと、1次救急は私でも引き受けます。私が手におえない場合はそのレベルに応じて2次、3次に送ります。心肺停止など、命に別状がある人を引き受けるのが3次救急です。この辺りでは国際医療センター、埼玉医大、川越医療センター、防衛医大でやっております。それに準じることを今は石心会病院がやっており、心肺停止の場合は毛呂病院等へ送ることになっています。どこの病院でも心肺停止の患者を受け入れられるわけではありません。それはある程度大きな病院でなければならず、それには人口が30万人、40万人くらいでない</p>

発 言 者	発 言 内 容
関根会長	<p>と経営は成り立ちません。</p>
	<p>自衛隊では、2次の外傷を中心にやりたいと言っております。それが私たちの病院の使命だとも言っております。ということは、手術はせず、とりあえず処置をするというレベルの病院です。私個人としては、新しくできたその病院に患者さんを送ることはありません。残念ながら、私の手に負えない人を送るようなレベルの病院ではないからです。それでしたら、国際医療センター、防衛医大、石心会病院で処置してもらうのがベストだと思っております。そのあたりは、委員の皆様によく理解してもらわなければならないかなと思っております。</p>
	<p>あくまでも航空自衛隊、防衛省が作る病院であり、国が直接経営している病院ではありません。先ほど自衛隊病院が赤字だという話がありましたが、その赤字の補填は財務省ではなく防衛省がやっているのだと思います。</p>
	<p>医師会としては、市民サイドに立って自衛隊と色々な話し合いをし、市民に役に立つように、市民が上手に利用できるようにしていただければ良いのだと思っております。</p>
関根会長	<p>ただいま自衛隊病院について、澤田委員から我々のわからない点についてもお話をいただきました。ありがとうございました。</p>
	<p>委員の皆様の意見では、やはり2次救急については是非やっていただきたい。そして、市民が使えなければあまり意味が無いのではないかという意見もありました。それらについては、答申が出た後に事務局が折衝していただければと思います。</p>
青山委員	<p>それでは、テーマ4「環境問題」について、青山委員からお願いします。</p>
	<p>騒音については、林だけではだめだと思います。道路沿いは木があるので良いかもしれませんが、もう少し考えた方がいいかもしれません。</p>

発 言 者	発 言 内 容
安孫子委員	<p>環境の対応については、慎重に進めた方が良いと思います。災害対処拠点がどのようなものになるのか、はっきりとしたイメージが無い中で、一律に木を伐採してしまっているのか、といったところは今の段階では一概に判断できないと思います。作るにしても色々なやり方があるのではないのかなと思いますので、防衛省ときちんと協議する必要があると思います。</p> <p>また、現状あのように残っている林が、騒音やその他の環境問題にどれだけの影響があるのかということを知った上での判断になるかと思いますので、そういった意味でも慎重に対応していくべきだと思います。</p>
岩井委員	<p>あれだけの自然を市民がどのように共有できるのかということを大事にしていきたいと思います。</p> <p>また、騒音は教育や日々の生活に大きく影響するものですので、それにも対応できればと思います。</p> <p>馬頭坂線ができたときに、道路の混み方が極端に変化しています。そのように、災害対処拠点ができることによって色々な環境も変化するのではないかと思いますので、生活環境への影響についての事前調査は必要であり、それが環境アセスメントにつながればと思っています。</p>
岩崎委員	<p>環境問題は、今の時代では最優先されることですので、国と市がその地域に手を加えようという時には、最も厳しい環境基準をそこに適用させるよう努力していただきたいと思います。</p>
大賀志委員	<p>東町側留保地周辺の小・中学校への騒音等の影響はどうか、ということが最も心配です。災害対処拠点ができた場合には当然、飛行機の飛来が多くなると思います。</p>

発 言 者	発 言 内 容
久原委員	<p>是非、小・中学校への騒音等の影響については十分に考えていただき、子供たちが勉強に集中できるような環境を必ず作っていただきたいと思います。</p> <p>私たちが住んでいるのはちょうど基地沿いの地域で、最近、音が結構響きます。実際に災害対処拠点として動き始めたら、基本的には我慢するしかないのだろーと思いますが、防音林など、ある程度音が防げるような計画を作って整備してほしいと思います。</p> <p>私たちの地域は、防衛省から防音工事の補助が出ており、おそらく小中学校も窓をきちんと閉めれば、音をかなり抑えられるようにはなっていると思いますが、防音についてこのように準備をする、ということは、事前の計画の中に入れてほしいと思っています。</p> <p>また、道路については、アクセスが良いということですが、実際に災害になれば、一般市民の通行はかなり抑えられる可能性があると思います。そのようなことも含め、防衛省がどのように整備していくのかわかるような計画を作るよう、市として要望していただきたいと思います。</p>
小鹿委員	<p>以前、所沢市の狭山ヶ丘中学校では、入間基地の飛行機の音がうるさいと言われており、実際私も行って見たところ、確かにものすごい音でした。しかし、現在、東町小学校・中学校に関しては全く音の問題は無いという報告を聞いています。というのも、自衛隊の方から聞きましたが、滑走路を作る際に、風向き等についても考えられており、近くに小学校・中学校があっても騒音等は無く、夏の暑い時期は窓を開けて授業ができるとのことです。</p> <p>ただ、今回災害対処拠点ができるにあたり、飛行機の発着場所がどの程度近くなるのか、それによって騒音が出るのか出ないのかということは心配なので調べていただきたいと思います。</p>

発 言 者	発 言 内 容
駒月委員	<p>元基地ということで、地中に安全を脅かすようなものが埋まっていることも否定できないと思いますので、もし、そういった好ましくないものが出てきた場合にも情報をきちんと公開してほしいと思います。そして、もし何も無ければ、何があるのかわからないという状況に比べれば、市民の安心感につながるのではないかと思います。</p>
澤田委員	<p>環境問題に関しては、法律に基づいてやっていただければ良いと思います。市役所には企画課だけではなく、専門分野の部署があるわけですから、そういう人の意見を聞いて進めていけば良いと思います。</p>
高石委員	<p>小学校・中学校等に騒音の影響が出ないよう、例えば、緑地帯を今の計画の倍にしてほしいなど、具体的に示したほうが良いと思います。</p>
高橋委員	<p>環境アセスメントは法令を満たしているわけですから、それ以上の発言は差し控えさせていただきます。</p> <p>緩衝緑地について、本来の目的は騒音の軽減、緩和であり、幅15mでそれは十分に満たしていると思います。もし、それでもうるさいということであれば、要所要所にアクリル板等の防音壁を設置したらいかがでしょうか。</p>
瀧委員	<p>私も全く同じ考えです。実際高速道路などもほとんどそれになっていきますので、ここに緑を残すということにそこまでこだわる必要は無いのかなと考えます。</p> <p>ただ、環境評価に関して、現在あれだけの緑があるものを、全くゼロにするというわけにはいかないと思います。防音の問題だけではなく、景観の問題から見ると、ある程度残すべきだとは思いますが、グラウンドの中</p>

発 言 者	発 言 内 容
豊泉委員	<p>に木を残すことはできませんし、何か計画していく時に邪魔になるようなものは思い切って取り去った方が、有事の時に有効に使えますし、効果があると思います。</p> <p>防衛省から示された資料の「4.施設の配置」というところに「周辺の市街地からの景観等に配慮し、」とあります。緑地帯を設置することについては、現実には設置したわけではないので、どの程度の騒音が出るのかはまだわかっていないと思います。市役所の中で、専門の部署と協議していただければと思います。</p>
吉川委員	<p>環境アセスメントは法令上必要ないということは、資料16で、埼玉県条例により20ha以上の開発は環境影響調査をする必要があるはずだという質問に答えたものと思います。私も県に確認したところ、病院は対象外であり、スポーツ・レクリエーション施設は50ha以上が対象であるとのことでした。このように埼玉県環境政策課の回答では、必要ないであろうということだと思います。</p> <p>しかし、近隣住民で心配する方が多いのであれば、県が必要ないと言ったとしても、是非実施していただきたいと思います。</p> <p>先ほどの意見にもありましたように、土壌にも心配がありますし、トラックの出入りや騒音、渋滞など未知数な部分が多すぎますので、当該市として是非やらせるべきだと思います。</p>
関根会長	<p>ありがとうございました。では、テーマ1～4について、質問等があればよろしくお願いいたします。</p>
久原委員	<p>私は平成20年6月に入間市で利用計画が示されて以降、何も具体的な行動は無いと申し上げましたが、実際そうなのか事務局に確認したいので</p>

発 言 者	発 言 内 容
浅見課長	<p>すが。</p> <p>予算計上するのはなかなか難しいということで、その面では実際の動きはとれなかったというのは事実です。</p>
大賀志委員	<p>先ほど、ここは地盤が良いという発言がありましたが、前にも私が話しましたように、名栗から立川までの活断層があります。この強力な地震帯のほぼ上に入間基地があります。そこに人員や物資を集結させるのは少し不安です。ここに災害対処拠点を作ることに反対であるというのはそのことも一つの理由です。</p> <p>資料８に、災害対処拠点は何をする場所かという記載があり、物資集積場、指揮所区域、野営区域と色々ありますが、被害状況が不明な状態において、遠方からの増援部隊を集結させる場所として使用するというのが大きなプランです。しかし、すでに西日本で、各地域の警察、消防、自衛隊で協力して１４万人派遣することができるというプランができているわけです。であれば、わざわざこの施設をここに作る必要があるのかというのが疑問です。</p> <p>ここで浅見課長に確認していただきたいのですが、３月３１日の記事に「南海トラフ巨大地震について、国や自治体は４月以降計画に基づいて訓練を実施し、今後は首都直下型地震に備えて計画を策定する」とありますが、今回記事に載っていた１０県以外の３７県には、このような計画を策定するよう何か指示があるはずですが、市に連絡が来ていないのであれば県に確認しておいてください。</p> <p>次に、ある市議会議員が、自分の議会での活動状況を報告するレポートをポスティングにより配布しています。私の家にも「市負担ゼロの留保地開発を検討」というものが入っていました。これは昭島市にある立川基地留保地６６haの区画整理事業で地権者は財務省となっており、これを市</p>

発 言 者	発 言 内 容
関根会長	<p>負担ゼロで実施しますというように書いてあります。どうしてこんなことができたのか、よく分析していただきたいです。やり方によってはそのようなことができるのではないかと考えています。お調べいただいて次回までに間に合えば教えていただきたいです。</p> <p>それでは、時間もかなり経過しましたので、本日の審議はここまでにしたいと思います。</p> <p>本日のご意見については、これまでのご意見と合わせて、事務局で整理をしておいてもらい、次回は、審議会として意見のまとめの作業に入りたいと思います。</p> <p>本日の議事については以上となりますが、他に何かございますか。</p> <p>無ければ、次第「3のその他」について、事務局からお願いします。</p>
亀田副主幹	<p>その他といたしまして、次回の日程をお知らせいたします。</p> <p>次回は、7月28日（火）の午後を予定しています。日程等は確定次第、早急にご案内いたします。</p> <p>次に、意見募集についてご報告いたします。</p> <p>市報や市公式ホームページ等を通じて、5月1日から「防衛省による東町側留保地の利用内容」に関する意見募集を約2か月の間、行ってまいりましたが、特別に枠を設けての募集は今月末をもって終了させていただきます。なお、常時、対応しております市民提案ボックスやホームページからの問い合わせによるご意見の受付は、今後も行ってまいりますのでよろしく願いいたします。</p>
関根会長	<p>他に何かありますか。なければ、これをもちまして平成27年度第3回のジョンソン基地跡地利用計画審議会を終了します。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>ありがとうございました。</p>

議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

27年 7月 15日

議 長 の 署 名

関根 栄一

議長が指名した者の署名

小鹿 広美